

200735022A

厚生労働科学研究費補助金

(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)

医薬品添加物の安全性情報の活用に関する研究

平成 19 年度 総括・分担研究報告書

主任研究者 戸部満寿夫

平成 20 年(2008 年)3 月

目 次

- I. 総括研究報告書
医薬品添加物の安全性情報の活用に関する研究
戸部満寿夫

- II. 分担研究報告書
 - 1. データの公表方法に関する研究
木嶋敬二
 - 2. データ検索要約に関する研究
手島邦和

- III. 資料
データ公開方法
医薬品添加物の安全性(WEB)データ

厚生労働科学研究費補助金総括研究報告書

厚生労働科学研究費補助金
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)
総括研究報告書

医薬品添加物の安全性情報の活用に関する研究

主任研究者 戸部満寿夫 日本医薬品添加剤協会
安全性委員会委員長

研究要旨

医薬品には多くの添加物が含まれており、その安全性については広く医療関係者から注目されているところである。その為、医薬品添加物542品目について平成15年から平成17年にかけて検討して医薬品添加物のデータベースを構築した。本研究は昨年を引き続きこのデータベースの活用としてこれを広く公表し、医薬品の安全性の確保に貢献することである。

医薬品メーカーが自主的に医薬品添加物を表示することで、使用する人及び医薬品を処方する医師、薬剤師など多くの人が医薬品の構成を知ることができる。

そこで、医薬品添加物の安全性に関する資料・情報を公開することで医薬品に係わる規制当局、医薬品業界、添加物業界、医療機関、薬局関係者等が医薬品添加物の安全性に関する情報を広く共有することができる。

なお、当面は一般に医薬品を利用する者が直接参照するデータベースとはしないが、専門家が参照することにより、一般に医薬品を利用する者もその情報を享受することとなる。

公開に際しては、平成15年～17年の厚生労働科学研究「医薬品添加物の安全性データベース等の国民向け情報提供のあり方に関する研究」の研究結果に「食品・医薬品共用添加物の安全性研究」のデータを追加した。

データベースを専門的な観点からみて、各分野に正確に伝わるようにすることを目的に以下の事項を行った。

1. 各成分について公定書等との関連情報や根拠文献の整理など行う。
関連情報として、各成分の医薬品に配合するときの用途、投与量、投与経路の最新情報を調査、収集して成分毎に情報として追記した。
また公表する資料においては各成分の安全性の表現の均質化を図ると共に、内容の充実化を図った。
2. 日本医薬品添加剤協会のホームページ上に公表するため、ホームページ作成委員会の設置による、掲載における技術的な項目を検討した。
3. データをサーバーにアップロードするためのシステムを構築した。
4. データをサーバーにアップロードするため各データをHTML形式に書き直し、更に検索機能を付加して公表に際して利用する人の利便性を図った。
5. 公表にあたり、公開に関するホームページ規約を設定し公表後に起こりうる問題への対応を検討した。

さらに、この規約を当データベースに入る前に読んでもらい同意した人のみが閲覧できるようにした。

6. 閲覧時において、検索サイトから直接、当ホームページにアクセスした場合でも、運用元が容易に認識できるように、全てのページのヘッダー及びフッターに「日本医薬品添加剤協会」を記載して責任の所在を明らかにする

このような研究の下で、インターネット上に「医薬品添加物の安全性データベース」を公表することが可能となった。

分担研究者

木嶋敬二（日本医薬品添加剤協会）

手島邦和（日本医薬品添加剤協会）

A. 研究目的

本研究は平成15年から17年度までに構築した、医薬品添加物の安全性に関するデータベースを広く公表することにより、医薬品の安全性確保に貢献することを目的とする。広く公表することは、医薬品添加物の安全性に関する情報を、関連する機関の間で共有化することができる。このことは、医薬品に表示された添加物についての安全性を高めるための施策にも必要である。また、公開することにより、医薬品に関係する者がそれぞれの立場においてデータベースの利用が容易になり、医薬品に表示された添加物についての安全性に関する情報を手軽に閲覧することができる。

B. 研究方法

1) 安全性データベースを公表できる様に専門的な立場から検討を行う。各成分について公定書等との関連情報や根拠文献の

整理などを行う。関連情報として、各成分の医薬品に配合するときの用途、投与量、投与経路の最新情報を調査、収集して成分毎に情報として追記した。また、公表する資料については各成分の表現の均質化を図ると共に、内容の充実を図る。

2) 日本医薬品添加剤協会のホームページ上に公表するため、ホームページ作成委員会の設置による、掲載上の技術的な項目を検討する。

3) データをサーバーにアップロードするためのシステムを構築する。

4) データをサーバーにアップロードするための各データをHTML形式に書き直し、更に検索機能を付与して、利用する人の利便性を図る。

5) 公表にあたり、公開に関するホームページ規約を設定し公表後に起こりうる問題の対応を検討した。さらに、この規約を当データベースに入る前に読んでもらい同意した人のみが閲覧できるようにする。

(資料4)

6) 閲覧時において検索サイトから直接、当ホームページにアクセスした場合も、アクセス者が、誰が運用するホームページか

が分るように、全てのページのヘッダー及びフッターに「日本医薬品添加剤協会」を記載して責任の所在を明らかにする。

7) 日本製薬団体連合会の安全性委員会を通して同会会員に対して掲載に関する意見を求める。

8) 掲載するにあたり、専門家の更なる検討を含めてより完成度の高いものにする。

9) 「日本医薬品添加物協会」のホームページを利用して掲載するため、データ容量の推測を行いこの結果に基づいてサーバー容量を増設する。

10) ホームページ上に収載するためのシステム設計、データベース収載の環境整備、アクセス動作性の確認を行う。

システム設計においては、検索機能を付加して、成分名、投与経路、投与量、安全性の試験項目性などの検索を可能とする。

11) 食品・医薬品共用添加物の安全性研究のデータを追加する。

C. 研究結果

1) 3年間で作成したデータベースの追加修正

①新たに調査したデータを追加した。

また、専門的な用語を一般的な用語に改めた。なお同時に誤字脱落も調べた。

掲載する成分数は495成分である。(資料1)

2) 追加のための情報収集

新たな文献調査情報並びに各成分への付加情報として、医薬品での用途、投与経路、投与量の情報を付加した。

3) システムの構築

使いやすさ、セキュリティー等を考慮して設計した。

4) システムの確認

接続する可能性のあるブラウザとして代表的な、「インターネットエクスプローラ (Microsoft Internet Explorer)」、「ファイアフォックス (Mozilla Firefox)」、「ネットスケープナビゲーター (Netscape Navigator)」、「サファリ (Safari MAC PC 使用者)」上での動作確認を行い問題なく接続可能であることと、文字化けのないことを確認した。また使用する OS の種類 Windows XP, Windows Vista, Mac OS の動作確認を行い OS の種類によらず読み取れることが確認できた。

D. 考察

1) 本年度は、昨年度に引き続き平成15年～17年の厚生労働科学研究「医薬品添加物の安全性データベース等の国民向け情報提供のあり方に関する研究」の医薬品添加物の安全性データを公表するために、個々のデータを、専門的な立場から記載内容の検討を行った。さらに、新たに「食品・医薬品安全性研究」のデータなどの追加により公表するデータがより充実した。

これらの資料は専門的な立場から検討を加えて分かり易い表現とした。

さらに、掲載内容と引用文献との関連を明快にした。

インターネットの掲載に際して、端末においても、サーバーにシステムをおいた場合においてもそれぞれで動作が確認できた。またブラウザの種類、OS の種類によらず接続が可能であり、文字化けがないシステムである。

E. 結論

公表件数は495成分であり、医薬品添加

剤協会のホームページ上にデータベース
とし閲覧できるようにした。(資料2)
アクセスにあたり当分の間、専門家の評価
を仰ぐため医薬品添加剤協会の会員及び
専門家に閲覧が可能とした。その後、閲覧
状況及び閲覧者からの意見や評価等をふ
まえて閲覧範囲を検討することとする。

F. 健康被害情報

なし。

G. 研究発表

なし。

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし。

厚生労働科学研究費補助金分担研究報告書

厚生労働科学研究費補助金
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)
分担研究報告書

医薬品添加物の安全性情報の活用に関する研究
分担研究者 木嶋敬二 日本医薬品添加物協会

研究要旨

医薬品には多くの添加物が含まれており、その安全性については広く医療関係者から注目されているところである。その為、医薬品添加物542品目について平成15年から平成17年にかけて検討して医薬品添加物のデータベースを構築した。本研究は昨年に引き続きこのデータベースの活用としてこれを広く公表し、医薬品の安全性の確保に貢献することである。

医薬品添加物は自主基準であるが医薬品メーカーにより全成分が表示されることになった。このことにより、使用する人及び医薬品を処方する医師、薬剤師など多くの人が医薬品の全成分の構成を知ることができる。

そこで、医薬品添加物の安全性に関する資料・情報を公開することで医薬品に係わる規制当局、医薬品業界、添加物業界、医療機関、薬局関係者等が医薬品添加物の安全性に関する情報を広く共有することができる。このことにより医薬品の安全性が益々確保されることになる。

なお、当面は一般に医薬品を利用する者が直接参照するデータベースとはしないが、専門家が参照することにより、一般に医薬品を利用する者もその情報を享受することとなる。公開に際しては、平成15年～17年の厚生労働科学研究「医薬品添加物の安全性データベース等の国民向け情報提供のあり方に関する研究」の研究結果に「食品・医薬品共用添加物の安全性研究」のデータを追加した。

データベースを専門的な観点からみて、各分野に正確に伝えるためにインターネットを利用して、データベースを公表することとした。この目的のため以下の事項を行った。

伝わるようにすることを目的にインターネットを利用することで

1. 日本医薬品添加剤協会のホームページ上に公表するため、ホームページ作成委員会の設置による、掲載における技術的な項目を検討した。
2. データをサーバーにアップロードするためのシステム設定を行った。
3. データをサーバーにアップロードするため各データをHTML形式に書き直し、更に

4. 公表にあたり、公開に関するホームページ規約を設定し公表後に起こりうる問題の対応を検討した。

さらに、この規約を当データベースに入る前に読んでもらい同意した人のみが閲覧できるようにした。

5. さらに公表時におけるインターネット画面の使い勝手が良く、検索サイトから直接、当ホームページにアクセスした場合も、アクセス者が、どこが運営するホームページかが分かるように、全てのページのヘッダー及びフッターに「日本医薬品添加剤協会」を記載するようにして責任の所在を明らかにする。

研究協力者

塩尻博之 ((前) エーザイ(株))

大沼俊雄 ((前) 日光ケミカルズ(株))

古泉秀夫 医薬品情報 21

委員会の設置による、掲載上の技術的な項目を検討する。

2) データをサーバーにアップロードするためのシステムを構築する。

3) データをサーバーにアップロードするための各データをHTML形式に書き直し、更に検索機能を付与して、利用する人の利便性を図る。

4) 公表にあたり、公開に関するホームページ規約を設定し、公表後に起こりうる問題の対応を検討した。さらに、この規約を当データベースに入る前に読んでもらい同意した人のみが閲覧できるようにした。

5) 閲覧時において、検索サイトから直接、当ホームページにアクセスした場合も、アクセス者が、誰が運用するホームページかが分かるように、全てのページのヘッダー及びフッターに「日本医薬品添加剤協会」を記載して責任の所在を明らかにする。

6) 日本製薬団体連合会の安全性委員会を通して同会会員に対して掲載に関する意見を求める。

7) 「日本医薬品添加物協会」のホームページを利用して掲載するため、データ容

A. 研究目的

本研究は平成15年から17年度までに構築した、医薬品添加物の安全性に関するデータベースを広く公表することにより、医薬品の安全性確保に貢献することを目的とする。広く公表することは、医薬品添加物の安全性に関する情報を、関連する機関の間で共有化することができる。このことは、医薬品に表示された添加物についての安全性を高めるための施策にも必要なことである。また、公開することにより、医薬品に関係する者がそれぞれの立場においてデータベースの利用がきわめて容易になり、従来と異なり医薬品に表示された添加物についての安全性に関する情報を手軽に閲覧することができる。

B. 研究方法

1) 日本医薬品添加剤協会のホームページ上に公表するため、ホームページ作成

量の推測を行いこの結果に基づいてサーバー容量を増設する。

8) ホームページ上に収載するためのシステム設計、データベース収載の環境整備、アクセス動作性の確認を行う。

システム設計においては、検索機能を付加して、成分名、投与経路、投与量、安全性の試験項目性などの検索を可能とする。

C. 研究結果

1) システムの構築

使いやすさ、セキュリティー等を考慮して設計した。

2) システムの確認

接続する可能性のあるブラウザとして代表的な、「インターネットエクスプローラー (Microsoft Internet Explorer)」、「ファイアフォックス (Mozilla Firefox)」、「ネットスケープナビゲーター (Netscape Navigator)」、「サファリ (Safari MAC PC 使用者)」上での動作確認を行い問題なく接続可能であることと、文字化けのないことを確認した。また使用するOSの種類 Windows XP, Windows Vista, Mac OSの動作確認を行い OS の種類によらず読み取れることが確認できた。

3) 検索機能を付加した。

検索例を資料3に示した。

4) ホームページ規約の設定

公表後に起こりうる問題の対応を検討した。規約を資料4に示した。

D. 考察

本年度は、平成15～17年度に医薬品

添加物の安全性データを公表するために、個々のデータを、システム上に移して、動作確認をおこなった。これと並行して前年度に引き続いて専門的な立場から記載内容の検討を行った。検討内容は前年度と同様に分担研究者が表現統一を図ることで作業を進めた。また、掲載方針も前年度に決めた、引用文献が明らかでない資料については掲載しないこととした。この方針により、掲載内容についての責任を明らかに出来ることになる。

インターネットの掲載に際して、端末においても、サーバーにシステムをおいた場合においてもそれぞれで動作が確認できた。またブラウザの種類、OSの種類によらず接続が可能であり、文字化けがないシステムである。

E. 結論

公表件数は495成分(資料2)であり、医薬品添加剤協会のホームページ上にデータベースとし閲覧できるようにした。アクセスにあたり当分の間、専門家の評価を仰ぐためを仰ぐため医薬品添加剤協会の会員及び専門家に閲覧が可能とした。その後、閲覧状況及び閲覧者からの意見や評価等をふまえて閲覧範囲を検討することとする。

F. 健康被害情報

なし。

G. 研究発表

なし。

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

厚生労働科学研究費補助金
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)
分担研究報告書

医薬品添加物の安全性情報の活用に関する研究

分担研究者 手島邦和 日本医薬品添加剤協会

研究要旨

医薬品には多くの添加物が含まれており、その安全性については広く医療関係者から注目されているところである。その為、医薬品添加物542品目について平成15年から平成17年にかけて検討して医薬品添加物のデータベースを構築した。本研究は昨年引き続きこのデータベースの活用としてこれを広く公表し、医薬品の安全性の確保に貢献することである。

医薬品メーカーが自主的に医薬品添加物を表示することで、使用する人及び医薬品を処方する医師、薬剤師など多くの人が医薬品の構成を知ることができる。

そこで、医薬品添加物の安全性に関する資料・情報を公開することで医薬品に係わる規制当局、医薬品業界、添加物業界、医療機関、薬局関係者等が医薬品添加物の安全性に関する情報を広く共有することができる。

なお、当面は一般に医薬品を利用する者が直接参照するデータベースとはしないが、専門家が参照することにより、一般に医薬品を利用する者もその情報を享受することとなる。

公開に際しては、平成15年～17年の厚生労働科学研究「医薬品添加物の安全性データベース等の国民向け情報提供のあり方に関する研究」の研究結果に「食品・医薬品共用添加物の安全性研究」のデータを追加した。

データベースを専門的な観点からみて、各分野に正確に伝わるようにすることを目的に以下の事項を行った。

1. 安全性データベースを公表できる様に専門的な立場から検討を行う。各成分について公定書等との関連情報や根拠文献の整理などを行う。関連情報として、各成分の医薬品に配合するときの用途、投与量、投与経路の最新情報を調査、収集して成分毎に情報として追記した。また、公表する資料については各成分の表現の均質化を図ると共に、内容の充実を図った。
2. 掲載内容と引用文献との関連を明確にする。
3. 専門的な用語を一般的な用語に改める。
4. 追加のための情報収集

研究協力者

飯島護丈(ファイザー㈱)

山下博久(ノバルティスファーマ㈱)

深澤洋史(メルク株式会社)

A. 研究目的

本研究は平成15年から17年度までに構築した、医薬品添加物の安全性に関するデータベースを広く公表することにより、医薬品の安全性確保に貢献することを目的とする。広く公表することは、医薬品添加物の安全性に関する情報を、関連する機関の間で共有化することができる。このことは、医薬品に表示された添加物についての安全性を高めるための施策にも必要である。また、公開することにより、医薬品に関係する者がそれぞれの立場においてデータベースの利用が容易になり、医薬品に表示された添加物についての安全性に関する情報を手軽に閲覧することができる。

B. 研究方法

1) 安全性データベースを公表できる様に専門的な立場から検討を行う。各成分について肯定所等との関連情報や根拠文献の整理などを行う。関連情報として、各成分の医薬品に配合するときの用途、投与量、投与経路の最新情報を調査、収集して成分毎に情報として追記した。また、公表する資料については各成分の表現の均質化を図ると共に、内容の充実を図る。

2) 掲載するにあたり、専門家のさらなる検討を含めてより完成度の高いものにする。

3) 食品・医薬品安全性研究のデータを追加する。

C. 研究結果

1) 3年間で作成したデータベースの追加修正

①新たに調査したデータを追加した。また、専門的な用語を一般的な用語に改めた。なお同時に誤字脱落も調べた。

掲載する成分数は495成分である。

②掲載成分の一覧を資料1に示した。

また、サイト上で掲載する全495成分を資料2に示した。

2) 追加のための情報収集

新たな文献調査情報並びに各成分への付加情報として、医薬品での用途、投与経路、投与量の情報を付加した。

D. 考察

1) 本年度は、平成15～17年度に医薬品添加物の安全性データを公表するために、個々のデータを、専門的な立場から記載内容の検討を行った。さらに、さらに、新たに「食品・医薬品安全性研究」のデータなどの追加により公表するデータがより充実した。

これらの資料は専門的な立場から検討を加えて分かり易い表現とした。

さらに、掲載内容と引用文献との関連が明快になった。

E. 結論

公表件数は495成分であり、医薬品添加剤協会のホームページ上にデータベースとし閲覧できるようにした。

アクセスにあたり当分の間、専門家の評価

を仰ぐため医薬品添加剤協会の会員及専門家に閲覧が可能とした。

その後、閲覧状況及び閲覧者からの意見や評価等をふまえて閲覧範囲を検討することとする。

F. 健康被害情報

なし。

G. 研究発表

なし。

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし。

- 1 アクリル酸・メタクリル酸メチルコポリマー分散液
- 2 アジピン酸
- 3 アジピン酸ジイソブチル
- 4 アジピン酸ジイソプロピル
- 5 アジピン酸ジオクチル
- 6 アジピン酸ポリエステル
- 7 亜硝酸ジシクロヘキシルアミン
- 8 亜硝酸ナトリウム
- 9 アスコルビン酸
- 10 アセチルトリプトファン
- 11 アセチルトリプトファンナトリウム
- 12 アセトアニリド
- 13 アセトン
- 14 アプロチニン液
- 15 アミノアルキルメタクリレートコポリマーRS
- 16 アミノ安息香酸エチル
- 17 アミノエチルスルホン酸
- 18 アラビアゴム
- 19 アラビアゴム末
- 20 アラントイン
- 21 アラントイン・dl-ピロリドンカルボン酸ナトリウム
- 22 アルキルアリルポリエーテルアルコール
- 23 アルキルナフタレンスルホン酸ナトリウム液
- 24 アルギン酸
- 25 アルギン酸ナトリウム
- 26 アルギン酸プロピレングリコール
- 27 アルファチオグリセリン
- 28 アルブミン
- 29 アルモンド油
- 30 安息香酸
- 31 安息香酸ナトリウム
- 32 安息香酸ベンジル
- 33 アンソッコウ
- 34 イオウ
- 35 イソシアヌール酸
- 36 イソステアリルアルコール
- 37 イソステアリルパルミテート
- 38 イソステアリン酸
- 39 イソステアリン酸ヘキサデシル
- 40 イソプロパノール
- 41 イソ吉草酸イソアミル
- 42 イノシトール
- 43 イプシロン-アミノカプロン酸
- 44 イリス根末
- 45 インジゴカルミン
- 46 ウコン抽出液
- 47 ウルソデオキシコール酸
- 48 液化石油ガス
- 49 液状ラノリン
- 50 液糖
- 51 エステルガム
- 52 エタノール
- 53 エチルセルロース
- 54 エチルマルトール
- 55 エチル尿素
- 56 エチレンカーボネート
- 57 エチレングリコール
- 58 エチレンジアミン
- 59 エデト酸カルシウム二ナトリウム
- 60 エデト酸四ナトリウム
- 61 エーテル
- 62 エリスリトール
- 63 エリソルビン酸
- 64 エリソルビン酸ナトリウム
- 65 塩化亜鉛
- 66 塩化亜鉛溶液
- 67 塩化アルミニウム
- 68 塩化カルシウム
- 69 塩化セチルピリジニウム
- 70 塩化第二鉄
- 71 塩化ナトリウム
- 72 塩化ベンザルコニウム
- 73 塩化ベンザルコニウム液
- 74 塩化ベンゼトニウム
- 75 塩化ベンゼトニウム液
- 76 塩化メチルロザニリン
- 77 塩酸
- 78 塩酸アルギニン
- 79 塩酸アルキルジアミノエチルグリシン液
- 80 塩酸グルコサミン
- 81 塩酸クロロヘキシジン
- 82 塩酸システイン
- 83 塩酸トリエタノールアミン
- 84 塩酸メプリルカイン
- 85 塩酸リジン
- 86 塩酸リドカイン
- 87 黄酸化鉄
- 88 黄色ワセリン
- 89 黄色三二酸化鉄
- 90 オキシベンゾン
- 91 オクチルデシルトリグリセリド
- 92 オクチルドデカノール
- 93 オクチルフェノキシエトキシエチルエーテル
スルホン酸ナトリウム
- 94 オリブ油
- 95 オレイルアルコール
- 96 オレイン酸
- 97 オレイン酸エチル
- 98 オレイン酸オレイル
- 99 オレイン酸デシル
- 100 オレンジ
- 101 オレンジエキス
- 102 オレンジエッセンス
- 103 オレンジ油
- 104 カアトレジン
- 105 カカオ脂
- 106 加水分解ゼラチン末
- 107 加水ラノリン
- 108 カゼイン製ペプトン
- 109 カプリル酸ナトリウム
- 110 カプリン酸
- 111 カラヤガム末
- 112 カラギーナン
- 113 カルバコール
- 114 カルバゾクロムスルホン酸ナトリウム
- 115 カルボキシメチルスターチナトリウム
- 116 カルミン
- 117 カルメロースカリウム
- 118 カルメロースカルシウム
- 119 カルメロースナトリウム
- 120 カロチン液
- 121 カロペプタイド
- 122 還元麦芽糖アメ

- 123 還元ラノリン
124 感光素201号
125 含水二酸化ケイ素
126 含水無晶形酸化ケイ素
127 乾燥クロレラ
128 乾燥酵母
129 乾燥水酸化アルミニウムゲル
130 カンゾウ
131 カンゾウエキス
132 カンゾウ粗エキス
133 キサンタンガム
134 キシリトール
135 希塩酸
136 吸着精製ラノリン
137 銀箔
138 グアーガム
139 クエン酸
140 クエン酸カルシウム
141 クエン酸トリエチル
142 クエン酸ナトリウム
143 グリチルリチン酸
144 グリチルリチン酸三ナトリウム
145 グリチルリチン酸二アンモニウム
146 グリチルリチン酸二カリウム
147 グリチルリチン酸モノアンモニウム
148 グリチルレチン酸
149 グルコノ- δ -ラクトン
150 グルコン酸
151 グルコン酸カルシウム
152 グルコン酸クロルヘキシジン液
153 グルコン酸ナトリウム
154 グルコン酸マグネシウム
155 クレアチニン
156 クレゾール
157 クレゾール酸
158 クロスカルメロースナトリウム
159 クロスポビドン
160 クロルヒドロキシアルミニウム
161 クロロクレゾール
162 ケイ酸アルミン酸マグネシウム
163 ケイ酸カルシウム
164 ケイ酸マグネシウム
165 ケイ酸マグネシウムアルミニウム
166 軽質酸化アルミニウム
167 軽質無水ケイ酸
168 結晶セルロース
169 ゲンチジン酸エタノールアミド
170 高度精製卵黄レシチン
171 合成ケイ酸アルミニウム
172 合成ケイ酸マグネシウムナトリウム
173 コハク化ゼラチン
174 コポリビドン
175 ゴマ油
176 コlesteroール
177 コロイド性含水ケイ酸アルミニウム
178 コロジオン
179 サッカリン
180 サフラワー油
181 サフラワー油脂肪酸
182 サラシミツロウ
183 サリチル酸エチレングリコール
184 サリチル酸メチル
185 三二酸化鉄
186 酸化カルシウム
187 酸化チタン
188 酸化亜鉛
189 ジイソプロパノールアミン
190 ジエタノールアミン
191 ジオクチルソジウムスルホサクシネート
192 ジステアリン酸ポリエチレングリコール
193 ジヒドロキシアルミニウムアミノアセテート
194 ジブロピレングリコール
195 ジブチルヒドロキシトルエン
196 脂肪酸エステルポリオキシエチレン誘導体
197 自己乳化型モノステアリン酸グリセリン
198 ジメチルエーテル
199 ジメチルシロキサン・メチル(ポリオキシエチレン)シロキサン共重合体
200 ジメチルポリシロキサン
201 ジメチルポリシロキサン(内服用)
202 ショウキョウ油
203 酒石酸
204 酒石酸ナトリウムカリウム
205 酒石酸水素カリウム
206 臭化カリウム
207 臭化カルシウム
208 臭化ナトリウム
209 重質無水ケイ酸
210 樟脳白油
211 硝酸カリウム
212 シリコーン樹脂エマルジョン
213 ジンコウ末
214 親油型モノオレイン酸グリセリン
215 親油型モノステアリン酸グリセリン
216 スクワラン
217 スクワレン
218 酢酸
219 酢酸カリウム
220 酢酸カルシウム
221 酢酸トコフェロール
222 酢酸ナトリウム
223 酢酸フタル酸セルロース
224 酢酸亜鉛
225 水酸化アルミナマグネシウム
226 水酸化アルミニウム
227 水酸化アルミニウムゲル
228 水酸化マグネシウム
229 水素添加ダイズリン脂質
230 水素添加ラノリンアルコール
231 水素添加ロジングリセリンエステル
232 ステアリンアルコール
233 ステアリン酸
234 ステアリン酸アルミニウム
235 ステアリン酸カリウム
236 ステアリン酸カルシウム
237 ステアリン酸ナトリウム
238 ステアリン酸ポリオキシル40
239 ステアリン酸ポリオキシル45
240 ステアリン酸ポリオキシル55
241 ステアリン酸マグネシウム
242 ステアリン酸亜鉛

- 243 精製カンゾウエキス末
244 精製ラノリン
245 精製大豆レシチン
246 精製白糖
247 石灰水
248 石油ベンジン
249 セタノール
250 セチルアルコール脂肪酸エステル
251 セチル硫酸ナトリウム
252 セッコウ
253 セトステアリルアルコール
254 セトステアリルアルコール・セトステアリル硫酸ナトリウム混合物
255 セトステアリルアルコール・ラウリル硫酸ナトリウム混合物
256 セトマクロゴール
257 セバシン酸ジイソプロピル
258 セバシン酸ジエチル
259 ゼラチン
260 ゼラチン加水分解物
261 セラック
262 セレシン
263 センブリ
264 疎水性無水ケイ酸
265 ソルビン酸
266 ソルビン酸カリウム
267 ダイズ硬化油
268 ダイズ油
269 大豆レシチン
270 第三リン酸カルシウム
271 タウマチン
272 タルク
273 炭酸アンモニウム
274 炭酸プロピレン
275 炭酸水素カリウム
276 タンニン酸
277 チオグリコール酸
278 チオグリコール酸ナトリウム
279 チオシアン酸カリウム
280 チオリンゴ酸ナトリウム
281 チオ硫酸ナトリウム
282 チメロサール
283 チモール
284 中鎖脂肪酸トリグリセリド
285 沈降炭酸カルシウム
286 デスオキシコール酸ナトリウム
287 テトラオレイン酸ポリオキシエチレンソルビット
288 デヒドロ酢酸
289 デヒドロ酢酸ナトリウム
290 低置換ヒドロキシプロピルセルロース
291 天然ケイ酸アルミニウム
292 デンプンリン酸エステルナトリウム
293 糖酸カルシウム
294 トウヒ油
295 トウモロコシデンプン
296 トコフェロール
297 トラガント
298 トラガント末
299 トリアセチン
300 トリイソオクタノール酸グリセリン
301 トリイソステアリン酸ポリオキシエチレングリセリル
302 トリイソプロパノールアミン
303 トリエタノールアミン
304 トリエチレングリコール
305 トリオレイン酸ポリオキシエチレンソルビタン(20E.O.)
306 トリカプリリン
307 トリクロロエタン
308 トリステアリン酸ソルビタン
309 トリステアリン酸ポリオキシエチレンソルビタン
310 トリプシン
311 トロメタモール
312 豚脂
313 ナタネ油
314 ナトリウムホルムアルデヒドスルホキシルレート
315 ニコチン酸ベンジルエステル
316 二酸化ケイ素
317 乳酸
318 乳酸アルミニウム
319 乳酸エチル
320 乳酸セチル
321 乳糖
322 尿素
323 濃グリセリン
324 濃塩化ベンザルコニウム液50
325 ノナン酸ワニリルアミド
326 ノニルフェノキシポリオキシエチレンエタン硫酸エステルアンモニウム
327 白色セラック
328 白糖
329 パラオキシ安息香酸ブチル
330 パラオキシ安息香酸メチル
331 パラオキシ安息香酸イソプロピル
332 パラオキシ安息香酸エチル
333 パラフィン
334 パラホルムアルデヒド
335 パルミチン酸
336 パルミチン酸イソプロピル
337 パルミチン酸セチル
338 ヒアルロン酸ナトリウム
339 ビターエッセンス
340 ビタチョコレート
341 ヒドロキシプロピルスターチ
342 ヒドロキシプロピルセルロース
343 ヒドロキシプロピルメチルセルロース2208
344 ヒドロキシプロピルメチルセルロースアセテートサクシネート
345 ヒドロキシプロピルメチルセルロースフタ

- 346 ヒドロキノン
 347 ヒマシ油
 348 ヒマワリ油
 349 ピロ亜硫酸ナトリウム
 350 フィチン酸
 351 フィトステロール
 352 フェニルエチルアルコール
 353 フェノール
 354 フェノールレッド
 355 フェロシアン化カリウム
 356 フェンプロバメート
 357 フタル酸ジエチル
 358 フタル酸ジブチル
 359 ブチルフタリルブチルグリコレート
 360 ブドウ糖
 361 部分アルファー化デンブ
 362 フマル酸
 363 フマル酸ステアリルナトリウム
 364 フマル酸一ナトリウム
 365 プルラン
 366 プロピオン酸
 367 プロピオン酸ナトリウム
 368 ヘキシルデカノール
 369 ヘスペリジン
 370 ペパーミントエッセンス
 371 ペパーミントパウダー
 372 ベヘニルアルコール
 373 ベヘン酸
 374 ペルーバルサム
 375 ベンゾトリアゾール
 376 ホウ砂
 377 ホウ酸
 378 ホウ酸アンモニウム
 379 ポビドン
 380 ポビドンK17
 381 ポリオキシエチレン(1)ポリオキシプロピレン(1)セチルエーテル
 382 ポリオキシエチレン(10)ポリオキシプロピレン(4)セチルエーテル
 383 ポリオキシエチレン(105)ポリオキシプロピレン(5)グリコール
 384 ポリオキシエチレン(120)ポリオキシプロピレン(40)グリコール
 385 ポリオキシエチレン(160)ポリオキシプロピレン(30)グリコール
 386 ポリオキシエチレン(17)ポリオキシプロピレン(23)セチルエーテル
 387 ポリオキシエチレン(200)ポリオキシプロピレングリコール(70)
 388 ポリオキシエチレン(3)ポリオキシプロピレン(17)グリコール
 389 ポリオキシエチレン(54)ポリオキシプロピレン(39)グリコール
 390 ポリオキシエチレンオクチルフェニルエーテル
 391 ポリオキシエチレンオレイルアミン
 392 ポリオキシエチレンオレイルエーテルリン酸ジエタノールアミン
 393 ポリオキシエチレンステアリルエーテルリン酸
 394 ポリオキシエチレンセチルエーテル
 395 ポリオキシエチレンセチルエーテルリン酸ナトリウム
 396 ポリオキシエチレンセトステアリルエーテル
 397 ポリオキシエチレンソルビタンモノラウレー
 398 ポリオキシエチレンヒマシ油
 399 ポリオキシエチレンラノリン
 400 ポリオキシエチレンラノリンアルコールエーテル(5E.O.)
 401 ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油
 402 ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油10
 403 ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油100
 404 ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油20
 405 ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油40
 406 ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油5
 407 ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油50
 408 ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油60
 409 ポリソルベート40
 410 ポリソルベート65
 411 ポリビニルアルコール(完全けん化物)
 412 ポリビニルアルコール(部分けん化物)
 413 ポリプロピレングリコール2000
 414 ポリ塩化ビニル
 415 ホルマリン
 416 マクロゴール1000
 417 マクロゴール1500
 418 マクロゴール1540
 419 マクロゴール200
 420 マクロゴール300
 421 マクロゴール400
 422 マクロゴール4000
 423 マクロゴール600
 424 マクロゴール6000
 425 マルチトール
 426 マルチトール液
 427 マルトース
 428 マレイン酸
 429 マロン酸
 430 ミリスチルアルコール
 431 ミリスチン酸
 432 ミリスチン酸イソプロピル
 433 ミリスチン酸オクチルドデシル
 434 ミリスチン酸セチル
 435 ミリスチン酸ミリスチル
 436 無水ケイ酸水加物
 437 無水フタル酸
 438 メグルミン
 439 メタケイ酸アルミン酸マグネシウム
 440 メタスルホ安息香酸ナトリウム
 441 メタノール
 442 メタンスルホン酸
 443 メチルイソブチルケトン
 444 メチルエチルケトン
 445 メチルセルロース
 446 メチルフェニルポリシロキサン
 447 綿実油

- 448 モノエタノールアミン
- 449 モノステアリン酸アルミニウム
- 450 モノステアリン酸グリセリン
- 451 モノステアリン酸プロピレングリコール
- 452 モノステアリン酸ポリエチレングリコール
- 453 モノラウリン酸ポリエチレングリコール
- 454 モノラウリン酸ポリオキシエチレンソルビット
- 455 薬用炭
- 456 ヤシ油
- 457 ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド
- 458 ヨウ化カリウム
- 459 ヨウ化ナトリウム
- 460 ラウリルアルコール
- 461 ラウリルジメチルアミノオキシド液
- 462 ラウリル硫酸ナトリウム
- 463 ラウリン酸ジエタノールアミド
- 464 ラウリン酸ヘキシル
- 465 ラウロイルサルコシンナトリウム
- 466 ラウロマクロゴール
- 467 酪酸リボフラビン
- 468 ラノリンアルコール
- 469 ラノリン脂肪酸イソプロピル
- 470 卵黄リン脂質
- 471 卵白アルブミン
- 472 リドカイン
- 473 リノール酸イソプロピル
- 474 リノール酸エチル
- 475 リボフラビン
- 476 硫酸オキシキノリン
- 477 硫酸カリウム
- 478 硫酸プロタミン
- 479 硫酸亜鉛
- 480 硫酸銅
- 481 リン酸
- 482 リン酸ジセチル
- 483 リン酸ナトリウムポリオキシエチレンラウリルエー
- 484 リン酸ポリオキシエチレンオレイルエーテル
- 485 リン酸マンガンアンモニウム
- 486 リン酸リボフラビンナトリウム
- 487 リン酸一水素カルシウム
- 488 リン酸一水素ナトリウム・七水和物
- 489 リン酸水素カルシウム
- 490 リン酸二水素カルシウム
- 491 ロジン
- 492 ワセリン
- 493 1,2,6-ヘキサントリオール
- 494 1,3-ブチレングリコール
- 495 m-クレゾール

日本医薬品添加剤協会

本データは平成15年～17年に検討した医薬品添加物の安全性に関するデータベースを広く公表し、医薬品の安全性の確保に貢献することを目的として作成されました。

医薬品に使用される医薬品添加物については、自主的に全てのものが表示されるようになりました。使用されている添加剤は製剤中の使用範囲で安全であることで使用されておりますが、それがどのように安全であるかなどの詳細な情報を手軽に知る手段がこれまでありませんでした。これらの情報を公開することで医薬品に係わる規制当局、医薬品業界、添加剤業界、医療機関、薬局関係者等が医薬品添加物の安全性に関する情報を広く共有することができます。

下記規約に同意される方のみデータを閲覧することができます。

医薬品添加剤安全性データご利用規約

1. 保証及び責任制限について

医薬品添加剤安全性資料公開のホームページの利用は、アクセス者自身の責任において行われるものとする。
公開する医薬品添加物の安全性の情報資料は、既に公表されているデータから作成したモノであり、掲載母体のホームページを管理する日本医薬品添加剤協会が、完全性を保証するものではない。

日本医薬品添加剤協会は、アクセス者が当ホームページ上から入手した情報（データ類を含む）により発生した問題に関して一切の責任を負わない。また、当ホームページにリンクが設定されている他のサイトから取得された各種情報の利用によって生じたあらゆる問題に関して一切の責任を負わない。

日本医薬品添加剤協会は、事前の告知なしに当ホームページを休止、あるいは停止することがある。

2. 準拠法および管轄裁判所

当ホームページは日本医薬品添加剤協会の管理下にあることとする。当ホームページへの

同意する

同意しない